

中央公民館図書室の図書業務を再開しました

読書の秋はリニューアルした ふくちの図書室へ

中央公民館図書室に図書電算システムが導入され、本を簡単に借りられるようになりました。ここでは、図書室の新しい利用方法をご紹介します。

『利用者カード』で簡単に借りられるようになりました



昨年まではノートなどに手書きしないと本を借りることができませんでしたが、利用者カードを作成すれば、カウンターでカードと本のバーコードを読み取るだけで貸出が完了します。借りられるのは1人**5冊**以内、返却期限は**2週間**です。返却時は本だけをカウンターに持ってきてください。
※本を借りるときは必ずカードをお持ちください。

〈利用者カードの作り方〉

窓口の申込用紙に記入して、本人確認ができる免許証や保険証、学生証などの身分証明書を提示してください。小・中学生は、申し込みの際保護者同伴のうえ、それぞれの身分証明書が必要です。

※カードを作れるのは小学生以上です。



『検索システム』で 素早く本を探します



読みたい本や探している本が見つからないときは、職員に気軽に声をかけてください。本のタイトルや著者名などから、職員が本をお探しします。中央公民館に置いていない本は予約することができます。予約された本については、蔵書や他の公共図書館にないかを調べたり、必要であれば購入したりすることもあります。



※10月30日因は職員研修のため、臨時休室させていただきます。

『開室時間』と『休室日』

開室時間：9時～17時
休室日：月曜日、第3日曜日、
祝日、年末年始、
蔵書整理期間

日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※現在、町には約23,000冊の蔵書があり、そのうち新着図書約200冊を含む約4,000冊が中央公民館図書室の棚に並んでいます。開室時間中は自由に本を読んだり調べ物をしたりすることができます。

※金田分館、方城分館図書室は、作業中のため利用できません。

☎ 中央公民館 図書室 ☎ 28-4100



中央公民館図書室

福智の風

▶甲子園で日本一に輝いた福島選手(P1-3)。偉業もさることながら、何より感動したのはその人柄でした。校歌斉唱の後、仲間が喜びを爆発させて応援席へ駆け寄る中、福島選手はただ一人、相手ベンチに深々と一礼。決まり事としてではなく、心から出たその品行。福智の球児が見せた栄光に恥じない謙虚な姿勢に、ただただ脱帽しました。(相原)

▶今月号の取材では、六夜待のガールズファイブや、豊徳祭のSmileなど、かわいいご当地アイドルさんのステージを撮影する機会に恵まれました。また、Smileファンの人にインタビューした際は福岡のアイドルの話で盛り上がりました(あくまでインタビューでの情報収集です)。これがプライベートならなあ…と思う今日この頃です。(荒牧)



元祖スイーツ「石焼きいも」
提供者●不明
撮影日●不明

甘い香りと独特の節回りで町をめぐり、つい「1本」と立ち寄ってしまう、秋冬の風物詩「石焼きいも」。始まりは江戸後期とされ、200年以上も愛され続ける、まさにスイーツの元祖です。

昔の写真を探しています！
☎ 総務課広報・広聴係 ☎ 22-0555

露を踏む膝の痛みを庇ひつ、
葡萄棚袋の中の楽しみな
颯風の進路の逸れて一安堵
寝返りをしては虫の音聞いてをり
大銀河映つてをりし芋の露
かなくや今日は一人の夕餉かな
窓開けて夜風と共に月光を
薫るの径皓皓と良夜かな
浮見堂かすめて消えし流れ星
福智山晴れ渡りたる稲の花

井上タミ子
永末 公恵
日高八重子
松本みつを
山本ひろし
香月 眸
高津 澄子
千手 弘子
熊谷カツミ
馬郡 京子

池田一步選

一語添へ一語削りて露の文
入れ歯はめ玉蜀黍と格闘す
敗戦日遠き記憶に飯を炊く
子供らの笑顔の数に西瓜切る
笠の中水子と二人風の盆
残暑にも耐へて五臓の恙無し
刃のたたね石より固き大南瓜
去りし日を偲ぶ色なき風の中
西瓜かな売り手買い手に叩かれて
信じきる事の幸せ星祭

長副美恵子
建部三由紀
松岡 萬枝
西田 真美
小川 雪
今井三千代
岩井ひさ幸
桂 啓子
加藤きみ子
小野 美幸

岩井鬼童選

朝飯に走り蕎麦とは心利く
暦より一足先の曼珠沙華
露草の清き青さや花は瑠璃
出雲より秋の色連れ娘来る
華やかの中の寂しさ盆踊
蛸雲目指し飛ぶかに驚一羽
秋さやか心安らぐ日を得たる
風の盆むせぶ胡弓のおわら節

倉石嘉代子
白石 凡子
杉 フジエ
長尾 冴子
藤井耿之介
渡邊 一枝
尾崎 和子
木村 誠一

池田一步選

四季の歌

俳句・短歌教室の詠歌紹介

青空をたおやかに咲く酔芙蓉夕づく風に紅さし初むる
油蟬つくつく法師 蜩と晩夏を惜しみ混声合唱
夕暮をつつく法師の声ひびき類なずる風秋の気配す
藪の中に白く咲きたる野の百合の雨に打たれて折れむばかりに
木といへど命絶つ時ためらいぬ七十年経し青桐切るは
ペンを持つ吾に語るか音の涼し伊万里風鈴やさしき形
祖母にそい優しく接する幼き甥乱暴な子といわれていしが
「正月も帰るからね」と息子言う胸に暖め電車を見送る

三村 和子
高村 三也
八代 範夫
越智 早苗
桑野 昭子
福田 清子
前田 信子
村上 美幸

ともしび短歌会短歌詠草